

## 地域文化を支える幼稚園・保育園の役割

—飯田市の人形劇フェスタを事例に—

松崎行代

(児童学科准教授)

### I 問題の背景と研究の目的

本稿は、飯田市で35年間継続開催されている市民文化活動であるいいだ人形劇フェスタ（以下、人形劇フェスタと表記する。）を事例に、地域文化を支える幼稚園・保育園の社会的役割について考察することを目的としている。

幼稚園の役割は、これまで在園児への直接的な指導が中心であった。しかし、2007年の学校教育法改正により、幼稚園は「家庭及び地域における幼児期の教育支援に努めるものである」と規定され、地域や家庭との連携を通じた地域貢献の役割が明示された<sup>1)</sup>。また、保育所に関しても、2001年の児童福祉法改正において、保育士の業務の一つとして在園児の保護者に対する保育の指導が規定された<sup>2)</sup>。こうして、地域の子育て支援が園および保育者の役割として法的に位置づけられた。さらに、平成20年改定の保育所保育指針では保育所の社会的責任が明示された。これによって、次世代育成や世代間交流を意図した小中学校の生徒の体験学習の受け入れから高齢者との交流活動の展開また災害時の救援までに及ぶ地域の公的施設としての幅広い役割が保育所に求められるようになった<sup>3)</sup>。そして2013年8月には、文部科学省がまとめた「地域活性化への動き～活力ある地域コミュニティ形成に向けて～」のなかで、教育・研究機関が、横断的な地域の人のつながりの形成や縦断的な文化の継承といった地域の連携をつくり出す役割に対して、積極的に取り組むことを提言している<sup>4)</sup>。人口減少が進行するなか、上記のように、幼稚園・保育園には子育て支援のみならず持続可能な地域の形成をめざす地域に対

する社会的役割が強く求められている。

飯田市は、人形劇を中軸とした文化政策によるまちづくりに取り組んできた（松崎行代、2012）。その中核を占めるのが人形劇フェスタである。人形劇フェスタは、日本最大の人形劇の祭典であり、「みる・演じる・ささえる わたしがつくるトライアングルステージ<sup>5)</sup>」を理念に、市民が参加しつくり出す市民文化活動である。1979年以来35年にわたる継続開催、市内20の全自治地区にわたり140の上演会場が設営される広域開催、2500人を数える市民のボランティア参加といった実績は、人形劇フェスタが市民に広く浸透していることを示し、年中行事のように地域文化の一つとして飯田市に位置づいている。

人形劇は幼い子どもから大人まで楽しめる舞台芸術である。人形劇フェスタでは、就学前の子どもを伴った親子連れが観客の中心を占めている。人形劇のような一回性の舞台芸術は、観客なくしては成り立たない。飯田市において人形劇フェスタが長期継続開催できた要因の一つとして、市民を中心とした多くの観客を獲得できたことが大きいと思われる。幼児を中心とした親子が人形劇を観たいと思い、実際に上演会場に足を運んだことが、人形劇フェスタを支えてきたといえる。また、市内全域に設営される上演会場には幼稚園や保育園が含まれ、運営には地域の公民館役員とあわせ各園の保護者会も参加している（松崎、2014）。このように、人形劇そのものの魅力に加えて、幼稚園・保育園の存在が、幼児をもつ親子の人形劇フェスタへの参加を促し、人形劇フェスタの成功に大きな

影響を与え、飯田市の地域文化を支えていると考えられる。

次代を担う人材育成にあたる幼稚園・保育園は、その地域のまちづくりを理解した教育・保育活動を展開することが、今後ますます求められるようになるであろう。しかしながら、地域社会への貢献という意識は、園や保育者にはこれまでのところ明確化されていないように思われる。そこで本稿では、飯田市のまちづくりの中核をなす人形劇および人形劇フェスタへの市内の幼稚園・保育園の取り組みの実態に基づいて、幼稚園・保育園の地域文化を支える社会的役割を明らかにすることを目的としている。

## II 先行研究の検討と本稿の位置づけ

子育て支援事業として、菅原千鶴子他(2012)の食育の充実をめざした幼稚園・保育園と家庭および地域との連携への取り組み、飯島友貴(2007)の園庭解放に向けた取り組みを挙げることができるが、これらは子育て家庭のごく限られた特定の地域の人々への貢献に終始している。また、地域文化による幼稚園・保育園の地域および家庭との連携への取り組みに関しては、田中美幸(2011)は、親子でのミソ作りを通じた活動を事例に、実働的な活動による親子のコミュニケーションの活性化や伝統食品を扱うことによる地域住民との世代間交流の意義を述べている。また、井本トシミ・鶴田由美(2009)は、地域の文化資源である昔話を活かした描画や語りの活動を事例に、園児による文化伝承の可能性を述べている。どちらの事例も地域の文化財を保育内容に活用してはいるものの、活動の内容は園児とその保護者の連携が中心であり、幼稚園・保育園の地域社会への貢献という視点はそこには見受けられず、教育課程・保育課程への文化財の導入がその主たる目的となっている。また、石原慎司(2014)は、幼稚園・保育園での日本の音楽伝承について幼稚園教育要領などの関連法規から検証しているが、これも幼稚園・保育園が果たす社会的役割についての観点から論じられてはいない。このようななかで長津詩織(2013)は、へき地保育所の地域住民

の結節点としての役割を考察している。長津は、保育所はその第一義的な目的を超えた地域の福祉センター的役割を持つと述べており、この点は公共施設としての幼稚園・保育園の地域貢献の役割として参考になるものだといえる。しかし、園を地域住民の交流の場とし、全地域への広がりをもった地域貢献の活動とはなっていない。

以上のように、幼稚園・保育園の地域との連携に関する先行研究は、①子育て支援事業への園の資源の利用、②園の保育活動への地域の資源の利用、③地域の福祉センター的役割の3つに分類できる。しかし、全て事例の紹介に終わり、園と当事者の関係性が論じられているだけで地域と連携した活動の意義や重要性を概念的に述べるにとどまっている。このためいずれの研究も、特に①②においては、園が地域社会にどのような貢献をしたかを検証する視点に欠けており、幼稚園・保育園が地域社会に果たす役割を視野に入れた研究は、児童学や保育学の分野では取り組まれてこなかったと言えよう。

本稿でとりあげる飯田市内の幼稚園・保育園の人形劇の取り組みは、子育て支援事業のような取り組みのきっかけが行政の施策や方針や法的根拠に基づくものではなく、各園が人形劇のまちづくりを進める飯田市という環境のなかにあつて自主的に取り組む活動であり、かつ、市民全体に広がりをもつものである。

本研究では、飯田市内の全幼稚園・保育園の園長に対して、各園での人形劇活動および人形劇フェスタへの意識や取り組みの実態把握に関する調査、あわせて、飯田市内の全幼稚園・保育園の全保護者に対しての、家庭での人形劇フェスタを中心とした人形劇観劇の経験、保護者の人形劇に対する意識、保護者の人形劇フェスタへの参加の実態、地域活動への関心や参加の実態に関する調査を実施し、調査結果の分析を通して人形劇および人形劇フェスタという地域文化の発展や継承に対し、幼稚園・保育園がどのような役割を果たしてきたか考察をまとめる。分析にあたっては、①幼稚園・保育園の人形劇に関する活動実態の把握とその分析、および、保護者の人形劇フェスタへの意識および参

加実態などの把握と分析を行う。その分析に基づき、②園での人形劇への取り組みが保護者に及ぼした影響の明確化を行い、③それらの取り組みが人形劇のまちづくりの中核をなす人形劇フェスタの継承や発展にどのような影響を及ぼしたのか分析する。

### Ⅲ 飯田市の幼稚園・保育園における人形劇への意識および取り組みに関する実態調査

人形劇のまちづくりを進める飯田市の幼稚園・保育園の人形劇への意識や取り組みの実態を把握するため、園長を対象にアンケート調査を実施した。

#### Ⅲ-1 調査概要

調査概要は以下のとおりである。

- ①実施期間：2014年3月。
- ②対象者：飯田市内全幼稚園6園（公立1園，市立5園）・全保育園35園（公立17園，私立18園），合計41園の園長。（園長が回答できない質問項目には，園長に準ずる者の回答も良好とした。）
- ③質問内容：園での人形劇活動の実態，人形劇および人形劇フェスタへの意識，人形劇フェスタへの参加実態など。
- ④配布および回収方法：飯田市健康福祉部子育て支援課より各園に配布。回収は各園が子育て支援課に封緘した回答用紙を提出した。
- ⑤回収率：58.8%（配布41，回収24）。
- ⑥有効回答率：100%（回収24，有効回答数24）

#### Ⅲ-2 調査結果

##### Ⅲ-2-1) 幼稚園・保育園の保育活動への人形劇の組み入れに関して

###### ①観劇の活動

教育課程・保育課程に人形劇の観劇を組み入れていた園は，表1に示したように，2013年度は17園，かつて組み入れていた園は1園で，計18園で75%だった。

また，2013年度に人形劇観劇を教育課程・保育課程に組み入れていた園での実施回数は，表2に示したように，年間2回以上実施している

園が回答対象の17園のうち13園で75%を上回った。他の地域との明確な比較はできないが，2014年6～9月において筆者が訪問した大阪府・京都府・奈良県の10園ほどに質問したところ，人形劇の観劇は行っていないという園は7園，行っている園でも2年に1回程度であった。これに比べると人形劇のまち飯田の幼稚園・保育園では，積極的に人形劇観劇を保育に組み入れていると捉えることができる。

飯田市教育委員会飯田文化会館人形劇のまちづくり係では，観劇活動の実施を考えている園に対し，プロ劇団の斡旋と補助金支出の行政支援を実施している。そして，市内にアマチュア劇団（小中学校の劇団を除く）が10劇団ほどあり園の上演の要望に応えやすい，また，保育士対象の人形劇研修会が毎年開催され人形劇を上演できる保育士がいるなど，恵まれた条件がそろっていることで，園での人形劇観劇が容易に実施できる環境にあることも，他の地域に比べ観劇活動が活発に行われる要因になっているといえる。

表1：教育課程・保育課程への人形劇観劇の組み入れ

n=24 単位：園(%)	
2013年度に組み入れていた	17 (75.0)
かつて組み入れたことがある	1 (4.2)
組み入れたことはない	6 (25.0)

表2：2013年度の人形劇観劇の回数

n=17(2013年度に観劇を実施した園)単位：園(%)	
1回	4 (23.5)
2回	5 (29.4)
3回	4 (23.5)
4回	4 (23.5)

###### ②演じる活動

2013年度またはかつて教育課程・保育課程に人形劇を演じる活動を組み入れていた園は，表3に示したように15園で62.5%であった。また，これらの園の演じる活動の具体的内容は表4に示したとおりである。発表会での上演は5歳児では24園中13園で54.2%と半数以上の園が実施

していた。ただし、人形劇作品の上演ばかりでなく、歌の発表にペープサート（立絵）の人形を登場させる程度のもも含まれている。

3歳児や保育園の未満児クラスでも、即興的に演じるごっこ遊びや絵本などをもとに演じて遊ぶ劇遊びなどに人形が用いられている実態が明らかとなり、日常的な保育活動に人形や人形劇が取り入れられていることが推察できる。

表3：教育課程・保育課程への人形劇を演じる活動の導入

n=24 単位：園(%)	
2013年度に導入していた	12
かつて導入したことがある	3
導入したことはない	9 (37.5)

表4：人形劇を演じる活動の実態

	n=24 単位：園			
	3歳未満	3歳	4歳	5歳
即興的に演じて遊ぶ	9	12	11	11
絵本などをもとに演じて遊ぶ	6	12	15	15
発表会で発表する	1	6	7	13
その他	3	1	4	3

### Ⅲ-2-2) 人形劇の教育的意義

人形劇の観劇や演じる活動を通して子どもに育つ力、つまり、人形劇の教育的意義については、表5に示したように、「感性」「想像力」「表現力」「言語獲得」「創造力」「お話を理解する力」を7割以上の園が挙げた（複数回答）。園は、人形劇を通じた多面的な力の育ちを認め、幼児にとって人形劇がふさわしい保育教材であると考えているといえる。

表5：人形劇の教育的意義

(複数回答) n=24 単位：園(%)	
感性	23 (95.8)
想像力	22 (91.7)
表現力	20 (88.3)
言語獲得	20 (88.3)

創造力	17 (70.1)
お話を理解する力	17 (70.1)
人とかかわる力	14 (58.3)
他者理解	9 (37.5)
推察力	6 (25.0)
その他	1 (4.1)

### Ⅲ-2-3) 人形劇フェスタの理解

#### ①教育課程・保育課程への人形劇観劇活動の組み入れへの人形劇フェスタの影響

表6で示したように、教育課程・保育課程に人形劇観劇を組み入れている18園のうち16園約90%の園で「観劇活動の組み入れは人形劇フェスタがあることが影響している」と考えていた。その理由（複数回答）では、表7に示したように「人形劇フェスタがあることで保護者や子どもが人形劇に親しんでいる」を回答対象の16園全園が挙げた。続いて「保育者が人形劇について学ぶ機会が多い」や「保育者が人形劇フェスタで観劇し、子どもにも観劇させたいと思う経験があるから」など、子どもが家庭において保護者と人形劇フェスタに積極的に参加しているだけでなく、保育者も人形劇フェスタに積極的に参加し、子どもと保育者双方が人形劇フェスタによって人形劇を楽しんでいることが推察できる。そして、このことが園での保育活動に影響を与えていることがわかった。

表6：教育課程・保育課程への人形劇の組み入れに人形劇フェスタが影響しているか

n=18(観劇活動を組み入れしている園) 単位：(%)	
そう考える	16 (88.9)
そう考えない	2 (11.1)

#### ②演じる活動の組み入れと人形劇フェスタ

表8に示したように、教育課程・保育課程に演じる活動を組み入れている15園では、10園約70%の園で「人形劇を演じて遊ぶ活動の組み入れは人形劇フェスタがあることが影響している」と考えていた。その理由として、表9に示したように回答対象10園のうち90%の園が「人形劇フェスタがあることで保護者や子どもが人

表7：教育課程・保育課程への人形劇観劇組み入れに人形劇フェスタがあることが影響していると考え理由

(複数回答) n=16(影響していると考える園) 単位：園(%)

人形劇フェスタがあることで保護者や子どもが人形劇に親しんでいる	16 (100)
保育者が人形劇について学ぶ機会が多い	13 (81.2)
保育者が人形劇フェスタで観劇し、子どもにも観劇させたいと思う経験があるから	12 (75.0)
園が地区公演会場として地域に定着化している	6 (37.5)
保育者自身が子どもの時に人形劇フェスタで人形劇に触れ、よかったという経験がある	5 (31.3)
地元アマチュア劇団がたくさんある	4 (25.0)
その他(飯田の文化として子どもたちに伝えていきたい)	2 (12.5)

表8：教育課程・保育課程への人形劇を演じる活動の組み入れに人形劇フェスタが影響しているか

n=15(演じて遊ぶ活動を組み入れしている園)  
単位：園(%)

そう考える	10 (66.7)
そう考えない	5 (33.3)

表10：保護者への人形劇フェスタの情報提供およびワッペン購入の案内

n=24(回答者全園) 単位：園(%)

情報提供やワッペン購入の案内をしている	24 (100)
情報提供やワッペン購入の案内をしていない	0

表9：教育課程・保育課程への人形劇を演じる活動の組み入れに人形劇フェスタがあることが影響していると考え理由

(複数回答) n=10(影響していると考える園) 単位：園(%)

人形劇フェスタがあることで保護者や子どもが人形劇に親しんでいる	9 (90.0)
保育者が人形劇について学ぶ機会が多い	5 (50.0)
人形や台本などを手に入れやすい	5 (50.0)
保育者自身が子どもの時、人形劇フェスタで人形劇に触れ、良かったという経験がある	2 (20.0)

形劇に親しんでいる」を挙げ最も高い割合であった(複数回答)。続いて「保育者が人形劇について学ぶ機会が多い」が50%、「保育者自身が子どもの時、人形劇フェスタで人形劇に触れ、よかったという経験がある」が20%であった。

保育者が人形劇についての知識を持ち指導ができるからということ以上に、家庭において子どもが保護者と人形劇を観る経験を重ねていることが、子ども自らが人形劇を演じる活動を生起させることに影響していると考えている。

### ③保護者への人形劇フェスタへの参加促進の働きかけ

表10に示したように、24園全ての園が、保護者に対して人形劇フェスタの情報提供や参加証ワッペンの購入案内を実施していた。

Ⅲ-2-3) ①②で、教育課程・保育課程へ

の人形劇活動の組み入れに、子どもが保護者と共に人形劇フェスタに参加していることが影響していると考える園が多かったが、そのきっかけは、園側が保護者に対し情報を提供するという参加を促進する働きかけがあったからだと考えられる。

### Ⅲ-3 考察

飯田市の幼稚園・保育園では、人形劇の教育的意義を理解し、観劇や演じる活動として人形劇を積極的に保育活動に組み入れている。園は人形劇を組み入れるにあたって、人形劇フェスタという地域文化があり、子どもたちが保護者とともにそれに参加して人形劇を楽しむ経験を持っていることが影響していると考えていることが明らかとなった。

保育内容は保育者の一方的な関心や考えから決定されるのではなく、園または家庭や地域での経験をもとに生じた子どもの興味関心・発想との擦り合わせのなかでつくられていく。そして、子どもの家庭や地域での経験は、その経験を共に行う保護者の価値観や関心が大きく影響していると考えられる。こうしたことから、保育内容は、保育者と子どもと保護者の三者によって構築されるといえる。

幼稚園・保育園が、人形劇を教育課程・保育課程に組み入れる理由に「人形劇フェスタがあることで保護者や子どもが人形劇に親しんでいる」ことを挙げていることは、つまり、幼稚園・保育園は人形劇フェスタが広く市民に浸透していると判断し、まちづくりへの人形劇フェスタの存在を評価していると考えられる。これは、幼稚園・保育園が人形劇のまちづくりを深く理解し、次の2点で人形劇のまちの核となる地域文化である人形劇および人形劇フェスタという地域文化を支えることに繋がっていると考えられる。1点は保護者および子どもたちの人形劇フェスタへの参加を推進すること、もう1点は子どもたちが人形劇フェスタに参加したことによって園の人形劇活動が充実し、人形劇文化の継承がなされるということである。

#### IV 飯田市の幼稚園・保育園の全保護者の人形劇および人形劇フェスタに関する意識および観劇経験に関する実態調査

人形劇のまちづくりの中核をなす人形劇フェスタが35年間継続開催されるなか、幼稚園・保育園の保護者は、人形劇および人形劇フェスタをどのように理解しているか、また、実際に人形劇フェスタに参加しているのか。その実態を把握し、人形劇フェスタの市民への浸透の実態を把握し、そこに幼稚園・保育園がどのように関わっているか検証する。

##### IV-1 調査概要

調査概要は以下のとおりである。

- ①実施期間：2014年3月。
- ②対象者：飯田市内全幼稚園6園（公立1園、

私立5園）・全保育園35園（公立17園、私立18園）、合計41園の全保護者（世帯数）。

- ③質問内容：人形劇フェスタへの参加実態、子どもへの人形劇観劇推奨の意識、人形劇フェスタの理解、地域活動への意識および参加実態など。
- ④配布および回収方法：飯田市健康福祉部子育て支援課より各園に配布、園が保護者に配布した。回収は、保護者が封緘した回答を園に提出し、園がまとめて子育て支援課に届けた。
- ⑤回収率：66.8%（配布3038、回収2028）。
- ⑥有効回答率：99.1%（回収：2028、有効回答数：2010）

#### IV-2 調査結果

##### IV-2-1) 人形劇フェスタへの参加

人形劇フェスタ2013への参加は、表11に示したように保護者の約50%が参加していた。参加形態は、表12に示したように、約95%が観劇参加であった。

表11：人形劇フェスタ2013への参加

	n=2010 単位：%
参加した	48.1
参加しなかった	51.2
その他	0.7

表12：人形劇フェスタ2013への参加形態

	(複数回答) n=967 単位：%
観劇	94.8
上演	0.4
地区実行委員	5.4
本部実行委員	0.8
ボランティアスタッフ	1.9

##### IV-2-2) 子どもの人形劇観劇推奨の意識

子どもへの人形劇観劇推奨の意識については、表13に示したように約80%が積極的に観せたいと考えている。その理由は、表14に示したように、「子どもが喜ぶ」が約90%、「子どものためになる」が約60%であった（複数回答）。

あわせて、大人だけの観劇については、表15

に示したように「行ってもいいと思うが行かない」「行かない」が合わせて90%以上となり、自分が観たいから行くのではなく子どもに観せたいから人形劇フェスタに引率者として観劇参加しているといえる。IV-2-1) に示したように、保護者の人形劇フェスタへの参加割合は高いが、子どもの人形劇観劇を主たる目的とした結果と考えられる。

表13：子どもへの人形劇観劇の推奨

	n=2010 単位：%
積極的に観せたいと考える	79.0
積極的に観せたいとは考えない	14.1
その他・NA	6.9

表14：子どもに人形劇を観せたい理由

(複数回答) n=1588 単位：%	
子どもが喜ぶ	87.1
子どものためになる	61.7
自分が楽しい	34.3
安価である	7.4
その他(飯田の文化だから。親子ともに楽しめるから。)	5.3
時間がつぶせる	5.0

表15：大人だけの観劇について

	n=2010 単位：%
実際に行くことがある	4.5
行ってもいいと思うが行ったことは無い	49.3
行こうと思える人形劇が無い	4.0
行かない	38.6
その他	0.3

#### IV-2-3) 人形劇フェスタへの理解

人形劇フェスタは飯田市や市民にとってなくてはならないものと考えているかについては、表16に示したように、「とてもそう思う」「まあまあそう思う」を合わせると80%を超える保護者がなくてはならないものと評価した。

その理由として、表17に示したように、市や市民にとって人形劇フェスタはどのように役立っているかの問いには、「地区公民館等の身

表16：人形劇フェスタの評価

	n=2010 単位：%
人形劇フェスタは市や市民にとってなくてはならない	
とてもそう思う	30.3
まあまあそう思う	2.6
あまりそう思わない	12.7
思わない	0.5
NA	0.8

表17：人形劇フェスタが飯田市や市民に役立っている理由

(複数回答) n=2010 単位：%	
地区の公民館等の身近な場所で子どもたちが人形劇を楽しめる	70.4
飯田市のシンボルとして誇れる催し	51.8
世界の人形劇文化に触れることができる	48.0
市民が人形劇をたくさん観ることができる	44.0
飯田市の知名度を上げる催し	32.5
日本中から多くの人が集まって市内各地がにぎわう	30.3
市民が人形劇団の人との出会いを楽しむことができる	21.9
中高生のボランティアが生き生きと活動する場	14.1
地元のアマチュア劇団の増加に影響し文化活動を活発にする契機	14.0
経済効果を上げている	12.4

近な場所で子どもたちが人形劇を楽しめる」ことに70%を超える保護者が価値を認めていた(複数回答)。人形劇フェスタの特徴である市内全域にわたり上演会場が設営される地区公演によって、市民が自分たちの生活圏で人形劇を楽しむことを可能にしている点を評価している。また、35年間継続開催されるなかで、人形劇のまち飯田のシンボルとして飯田市民が誇りと思えるものとして位置づいている点を50%の人が評価している。

#### Ⅳ-2-4) 人形劇フェスタに参加したことによる地域への関心の拡がり

まちづくりを目的とした人形劇フェスタへの参加が、地域への関心を拡げ地域活動に積極的に参加する人づくりにつながっているか。その実態を把握するため、2013年の人形劇フェスタ

への参加の有無と、公民館活動および自治会活動への関心と活動への参加についての相関をみた。結果は、表18~21のとおりである。

公民館活動への関心、公民館活動への参加、自治会への関心、自治会への参加の全てにおいて、人形劇フェスタに参加した人の方がしない人に比べて関心を持ち、積極的な参加がみられた。親子で人形劇観劇を楽しむというかたちで人形劇フェスタに参加したが、保護者にとっては、地域の文化活動への参加として地域に視点を向けるきっかけになっていると考えられる。

#### Ⅳ-3 考察

飯田市内の幼稚園・保育園の保護者は、子どもに人形劇を積極的に観劇させたいと考え、約50%の保護者が人形劇フェスタに参加し人形劇

表18：人形劇フェスタへの参加・不参加別公民館活動への関心

単位：%

		公民館活動への関心				n
		とてもある	まあまあある	あまり無い	全く無い	
2013年の人形劇フェスタ	参加した	6.2	52.9	35.6	5.3	n=960
	参加しない	2.4	37.0	46.9	13.7	n=1024

表19：人形劇フェスタへの参加・不参加別公民館活動への参加

単位：%

		公民館活動への参加				n
		とても積極的	まあまあ積極的	やや消極的	全く消極的	
2013年の人形劇フェスタ	参加した	2.9	36.0	38.9	22.2	n=959
	参加しない	1.6	20.4	37.4	40.6	n=1024

表20：人形劇フェスタへの参加・不参加別自治会への関心

単位：%

		自治会への意識				n
		とてもある	まあまあある	あまり無い	全く無い	
2013年の人形劇フェスタ	参加した	3.5	47.9	38.1	10.6	n=957
	参加しない	0.9	30.6	47.1	21.4	n=1021

表21：人形劇フェスタへの参加・不参加別自治会活動への参加

単位：%

		自治会活動への参加				n
		とても積極的	まあまあ積極的	やや消極的	全く消極的	
2013年の人形劇フェスタ	参加した	3.3	36.2	38.8	21.7	n=959
	参加しない	0.6	22.3	36.1	41.1	n=1020



を観劇している。こうした保護者は、人形劇は子どもが喜ぶから、また、子どものためになると理解し、保護者として同伴し人形劇を観劇している。つまり、自分自身が人形劇を観て楽しみたいからというよりは、子どもを主とした観劇であり、保護者には、まちづくりを目的とした市民文化活動である人形劇フェスタに観劇というかたちで参加しているという意識はなく、自身の子どもに人形劇を観せたいという個人的な思いが優先したなかで人形劇フェスタに参加している。

しかしながら、アンケート結果に明らかなように、人形劇フェスタに参加した人の方がしていない人に比べ、公民館や自治会といった地域活動に対して関心を持ち参加に意欲を持っている。つまり、まちづくりの一旦を担う市民文化活動として意識することなく人形劇フェスタに参加したことが、地域活動への関心を喚起させるきっかけになっているといえる。人形劇フェスタは、市内全域の公民館、学校や保育園、寺社等を上演会場に地区公演が開催され、そこに地元の公民館役員やその他地区の諸団体あるいは個人がボランティアとして運営に携わっている。観劇を目的に参加した保護者や子どもたちは、人形劇に触れるだけでなく、地域の人との出会い、地域活動の一端に触れることになっているのである。

## V まとめ—幼稚園・保育園が果たす地域文化を支える役割と課題—

### V-1 地域文化を支える幼稚園・保育園の役割

人形劇フェスタが多くの市民の参加を得て35年間継続開催を続けてきた背景には、観客として多くの市民が参加していたことが重要な要因であったことが指摘できる。その観客の多くを幼児とその保護者が占めていることから、本稿では、幼児の通園する幼稚園・保育園が地域文化である人形劇フェスタにどのように関わっているのか、そして幼稚園・保育園が人形劇フェスタという地域文化を支えるのにどのような役割を果たしているのかを検証した。その結果、

以下の3点が指摘できた。

1点目は、園での子どもたちへの人形劇文化の伝承が、家庭・保護者の行動にまで影響を及ぼしているということである。

飯田市内の幼稚園・保育園では、教育課程・保育課程に積極的に人形劇を組み入れていた。そのため、子どもたちは、日常的な遊びの活動から発表会や観劇会などの特別な行事等の園の保育活動を通し、さまざまな形で人形劇を観たり演じたりという経験を数多く持つことができる。これによって人形劇の面白さを味わい、人形劇を身近な文化として感じるようになっていくようになっている。

そして、子どもが園で得た学びは家庭の保護者に伝えられ、保護者の人形劇理解に影響を与えることとなり、飯田市民の人形劇理解の拡充に結びついていると考えられる。保護者は、人形劇は子どもが喜んで観る舞台芸術であり、子どもの発達における教育的意義を有するものだと理解し、子どもに人形劇を積極的に観せたいと考えるようになるのである。こうして、保護者は、家庭においても積極的に子どもに人形劇を観劇させようと、共に人形劇フェスタに参加し、人形劇を観劇すると考えられる。

2点目は、保護者への人形劇情報の提供が、家庭・保護者の人形劇フェスタへの参加を促進させるということである。

幼稚園や保育園が家庭に対し人形劇および人形劇フェスタの情報を提供することで、保護者は子どもにとっての人形劇の教育的価値を理解し、実際に催事に出掛けて人形劇を子どもに観せようというきっかけを与えることになる。こうした情報に促進され、保護者が積極的に子どもを同伴して人形劇フェスタに観劇参加することで、市民文化活動である人形劇フェスタは成り立ち、地域の人形劇文化が継承されていくことになるのである。

3点目は、幼稚園・保育園からの情報に促進されて、人形劇フェスタに参加したことをきっかけに、保護者は地域活動に関心を持ち、まちづくりの活動に積極的に参加するようになることが期待できるということである。

子どもが幼稚園・保育園で人形劇に関心を持ったこと、また、園からの人形劇フェスタに関する情報の提供があったことで、保護者は子どもを同伴して人形劇フェスタに参加する。この経験が、保護者、特に若い母親たちが人形劇フェスタを支える地域社会の活動に関心を持ち、積極的に地域活動に参加するきっかけとなることが考えられる。地域社会の自治活動への若い世代や女性の参加は活発ではないのが実情であるが、幼稚園・保育園を通して女性が地域活動に対する理解を深め、参加する契機となるという意味で、幼稚園・保育園の活動は、まちづくりに貢献し、その成果が出ているといえる。

## V-2 地域文化を支える存在としての幼稚園・保育園の今後の課題

飯田市の幼稚園・保育園においては、今まで保育の現場に人形劇を組み入れてきたが、それは人形劇の教育的意義の観点からであり、幼稚園・保育園という教育・保育機関としての地域貢献という社会的意義を認識するということにまでは至っていなかったのではないと思われる。幼稚園・保育園の保育活動は、各園の独自性に委ねられているが、次世代を担う子どもたちを育成するという社会的責任を保育に反映することも今後は求められていくであろう。人口減少地域である飯田市においては、ふるさと飯田を愛する心を持った次代を担う人材の基盤を育てることが求められ<sup>6)</sup>、各幼稚園・保育園はそれに応えていく一定の責任があると考えられる。飯田市における幼稚園・保育園への人形劇の導入は、「人形劇のまち飯田」を愛する人材の育成という社会的意義を果たしているという事実を認識し、今後幼稚園・保育園が地域の文化資源の継承者としての役割をより積極的に果たすことが望まれる。

## 註

- 1) 2007年7月、文部科学省より学校教育法の一部改正が通知され、「幼稚園においては、保護者及び住民その他の関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努めるもの」(第24条)とした。
- 2) 2001年11月に公布された、児童福祉法の一部改正において、「(第十八条の四) この法律で、保育士とは、第十八条の十八第一項の登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもつて、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいう」と、保育士の業務に保護者に対する指導が付加された。
- 3) 2007年改定の保育所保育指針第6章保育者に対する支援3 地域における子育て支援において、(1)ア地域の子育ての拠点としての機能として、子育て家庭への保育所機能の開放、相談援助の実施、交流の場の提供などが明示された。
- 4) 文部科学省、2013年1月、第1回地域活性化の推進に関する関係閣僚会合資料「文部科学省による地域活性化への動き～活力ある地域コミュニティ形成に向けて～」<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/platform/kakuryo/dail/siryo3.pdf>
- 5) いいだ人形劇フェスタ10周年記念誌編集委員会、2009、『いいだ人形劇フェスタ10周年記念誌 つながってく～人形たちとあゆんだ30年～』、87-98
- 6) 飯田市教育委員会が2010年に示した「飯田市教育振興基本計画(2010～2016)」には、飯田の資源を活かして、飯田の価値と独自性に自信と誇りを持つ人を育む力「地育力」によるこころ豊かな人づくりを基本目標とし、故郷への愛着の育成をねらう取り組みが示されている。

## 参考文献

- 飯島友貴、2007、「保育園・幼稚園における子育て支援の実情と実態について」、『昭和学院短期大学生生活科学誌』(18)、56-60
- 石原慎司、2014、「日本の音楽文化伝承を幼稚園で配慮する必要性：幼稚園教育要領と関連法規に基づいて」、『福岡子ども短期大学紀要』(25)、81-90
- 井本トシミ・嶋田由美、2008、「保育園児における地域の民話の伝承」『和歌山大学教育学紀要』59、81-86
- 厚生労働省、2008、改定保育所保育指針解説、フレーベル館
- 菅原千鶴子・森谷潔・木田春代、2012、「就学前の子どもを育てる保護者に効果的な継続食育教室と札幌市の幼稚園ならびに保育園の現

- 状], 『天使大学紀要』 13(2), 79-93
- 田中美由紀, 2011, 「家庭・地域と園を結ぶ・開かれた教材 ミソ造りの実践を通してその(5) 一幼稚園における親子のミソ造り体験から見えてきた食文化活動への拡がり一」, 『常葉学園短期大学紀要』 (42), 139-156
- 長津詩織, 2013, 「へき地保育所の地域的存立過程一北海道標茶町・塘路ひしのみ保育園の事例から一」『北海道大学大学院教育学研究院紀要』 118: 1-22
- 松崎行代, 2011, 「市民による文化活動成立の文化的要因一飯田市の人形劇フェスを事例に一」『京都女子大学大学院現代社会研究論集』 5: 63-75
- 松崎行代, 2012, 「飯田市における文化行政とまちづくり一人形劇フェスタを中心に一」『京都女子大学大学院現代社会研究科論集』 6: 79-95
- 文部科学省, 2008, 改訂幼稚園教育要領解説, フレーベル館

## 謝辞

本研究の調査にあたっては、飯田市健康福祉部および飯田市教育委員会、また、市内の全幼稚園・保育園の園長先生および保護者の方々の多大なご尽力とご厚意によって実施することができました。ここにあらためて感謝の意を表します。